



発行所
三池炭鉱労組

大牟田市不知火町

電話 ③③③③番

編集人 古賀 徳雄

年刊600円 送料共

中小に大牟田の春闘

大牟田の春闘は、とくに中小の情にきびしい。大地評は「三井の組合でまわっているというしめつけの強まりに原因する」とが、二、三をのぞいては全般的に見るが、こゝでも三井は許されず今年の中小の成果は、大牟田運送、やがて金労協の怒りが燃えあがが千円、田中製麦が千三百円と非なることだろう。

第四次合理化"にかけた

三井の意図許されぬ

どうして新幹部働く者の命と生活にまかされよう

責任あくまで三井

CO患者は断固守って闘う(中史委)

三池労組はこのほど開催した中央委員会で、現在きびしい情勢の中にあるCO患者を、①治っていないCO患者は、あくまで守って闘う、②経過措置については、最終的には自分たちで負担を覚悟するハラをもって、総評・炭労に協力を求め、運動によって解決する、③まず自分たちが率先してCO患者を守る会をつくり、全国にこの火を拡げる、④生活苦に追いやられた坑外配転のCO患者のため、配転料の獲得と最低七級認定の闘いを起こす以上の四項目を基本として闘っていくことをきめた。(詳細は本紙次号で紹介)

CO患者を守ることは、まさに人道上の問題であって、このような悲劇をつくり出した三井と政府は断じて許すことができません、あくまで責任をとらせなければならぬ。

坑外(四山)から

働く仲間のみなさん、炭労はいま右炭固有化の闘いを起こしています。それに一番強く反対しているのが、三井資本であります。

【人員計画】	
現在	六〇〇人
直接夫 四〇〇〇人	五〇%
間接夫 二四〇〇人	三〇%
坑外 一六五〇人	二〇%
計 八〇五〇人	
将来	六〇〇人
直接夫 三六〇〇人	六〇%
間接夫 一八〇〇人	三〇%
坑外 六〇〇人	一〇%

【出炭計画(日産)】

現在 二二〇〇〇トン	計 六〇〇人
(月一平均七〇〇トン)	
将来 二五〇〇〇トン	
(月一平均二五〇〇トン)	

右の表でおわかりのように、坑外部門、坑内間接夫の人員を大幅に削減し、直接部門に大量の人員を投入する計画です。現に倉田社

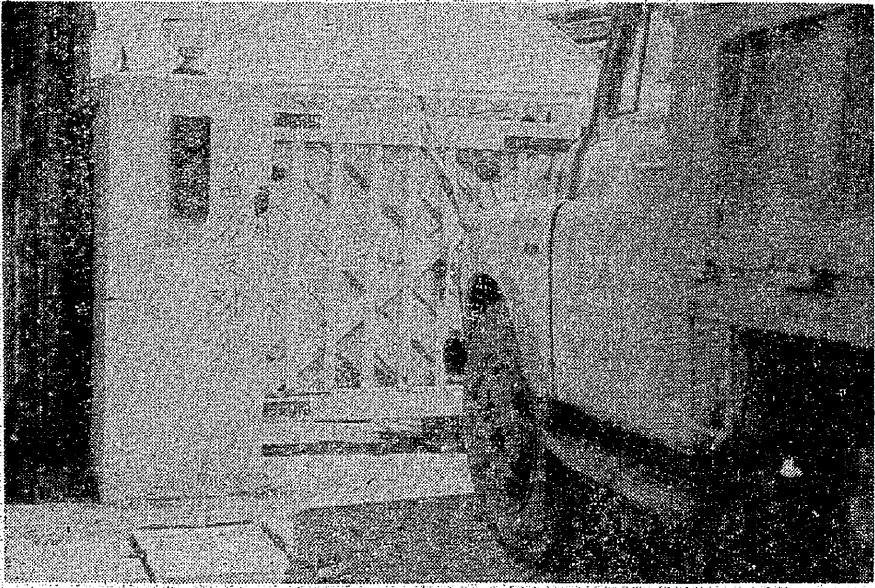
70年「安保」の前しよう戦

参院選、目前に迫る

参院選挙は、いよいよ六月十三日公示、七月七日投票となった。今回改選される参議院議員は、全国区五十一人(補欠)、地方区七十五人の計百二十六人。有権者数六千七百七十万人で、前回より八百十万人増。このため全国区の当選圏は、五十五万六千票とみられる。今度の参議院選は、「九七〇年」(日本安保条約再検討期)の条約改定をめぐる前哨戦として重大な意義をもっている。ま

た自民党は選挙の結果、十三議席減ると参議院で過半数を割るし、そこまでするのか、と、与野党の勢力が接近している参院では、四、五議席減れば議院運営が自民党の思うままにできなくなる。

自民党は核アレルギーの脱却、安保条約の再検討などを積極的に宣伝して、国民の支持をとりつけようとしている。これに対し社会党は、「戦争反対・安保条約廃止」を主張している。また、民社党は「駐留なき安保」



長は三池にやってくる、中堅係員との座談会の席上で「現在千七百名の職員を、七百名くらいまで減らす」と発表しました。(社内時報二月号より)

新幹部のみなさん、転制や新幹部の幹部に、私たちの命と生活を果してまかされるでしょうか。

昭和二十八年の「英雄なき百十三日の闘い」で、会社に指名解雇を撤回させ、組合の勝利に帰した闘い以後、「三池闘争」の前年の三十四年までの、労働者の死亡数・負傷数の減少と、三池闘争以後組合を分裂させた後の死亡数、負傷数の増加を比べると、労働者の団結の力がいかに保安を左右するかを、雄弁に物語っています。

次の表を見て下さい。	
年度別 死亡数	重傷者
二〇年 二〇〇人	九六六人
二一年 二〇〇人	一七二七人
二二年 二〇〇人	二九七人
二三年 二〇〇人	二四二八人
二四年 二〇〇人	二四二八人
二五年 二〇〇人	二四二八人
二六年 二〇〇人	二四二八人
二七年 二〇〇人	二四二八人
二八年 二〇〇人	二四二八人
二九年 二〇〇人	二四二八人
三〇年 二〇〇人	二四二八人
三一年 二〇〇人	二四二八人
三二年 二〇〇人	二四二八人
三三年 二〇〇人	二四二八人
三四年 二〇〇人	二四二八人
三五年 二〇〇人	二四二八人
三六年 二〇〇人	二四二八人
三七年 二〇〇人	二四二八人
三八年 二〇〇人	二四二八人
三九年 二〇〇人	二四二八人
四〇年 二〇〇人	二四二八人
四一年 二〇〇人	二四二八人
四二年 二〇〇人	二四二八人

(四年分は六月末実績)

働く仲間のみなさん、命と生活を守るために、三池で働くすべての仲間とともに手を組んで、第四次合理化阻止のために立ち上がりましょう。

閉ざれた宮浦鉱の門柱に、だれが書いたか「合理化反対」の怒りの言葉。

私たちが四年有余、CO闘争をすすめてきた、またこれからもこの闘争をすすめていく。その上からも注目したいのが水俣病、水俣病に新潟の「第二水俣病」、それに富山の「イタイイタイ病」に関する闘いの広がりのこと。ここに参考までに、水俣病対策市民会議(事務局「水俣市陣内牧ノ内市官住宅、日吉(ミナト)橋」)の機関紙の記事を紹介し、これからの闘いに役立てたい。

水俣病の苦しみは、まだ終わっていない。熊本県南端の水俣市に発生した有機水銀中毒による「水俣病」は、新潟県阿賀野川流域でも発生した。いまその原因究明が大詰めにきている。

富山県では鉱業公害が生んだ「イタイイタイ病」があり、福岡県の大牟田市でも、大牟田川の汚染で水銀中毒の恐怖が広がっている。

戦後の日本はその全機能、全能力を経済開発のため使った。経済開発は、戦後の日本の、しきの御旗」となっている。

だがしかし、そのために人間がいけにえにされることは許されぬ。まさに水俣病は、このしきの御旗で人間が犠牲にされたことも悲惨な工場公害といえる。

ことさらに「獲た子に返す」ということがあるが、工場公害が全国的に注目されているとき、私たちはあえてもう一度水俣病を見直し、人間性回復の叫びをあげたい。第三、第四の水俣病をおこさないために。

水俣駅前、チソ水俣工場、駅におり立つとグリーンという看板が耳をくすぐる。林立する煙突から立ちのぼる白煙。

人口四万五千人の水俣市の繁華街の真ん中にあるこの工場は、約二千五百人の従業員をかかえ、水俣市経済の活殺をにぎっているといわれる。

昭和二十八年から三十五年にかけて、その工場から出る工場排水に含まれていた有機水銀が原因で、百十一人の罪もない善良な市民が奇病にかかり、そのうち四十二人が苦しみがら死亡するという、世界でもまれな公害をだしたのである。

ある日昼食をとるために、朝早くシジミ貝や海草売りのお

許せぬ経済開発のいけにえ

怒り湧く、水俣病のむごたらしさ

「この子たちを見ていると、人間としてこんなにもむごいことをしているのか、怒りが湧きます」と、看護婦さんたちは訴えるのだから、一見平和な町の中に、これほど不幸な水俣病患者がいまなお苦しんでいる、ものがきついているのである。水俣病は決して過去ののものではない。

組合員の皆さん、水俣病患者を守って闘っている人々と交流しましょう。

「もうみんな、忘れとるんです。水俣病はさながら、町を訪れる。『おくさん、ねっこはいらんかいた?』。ねっこはワカメの根の部分のことである。主婦たちはまだ水気がききつけないねっこを煮る。かつては、海で採れたものはいい買値があった。脳を冒す恐ろしい有機水銀が、工場から海へ流れ込み、それが魚介類や海草類に入り込み、水俣病をおこしていたからだ。だがいまは、だれもそのことを考えず、市民の生活は完全に昔にもどった。

だが、生き地獄はつづいているのだ。海岸に点在する部落には、まだ五十七人も患者が病苦のさ中にあるからだ。

中には完全な知能障害で、一日じゅうだれを流したまま、部屋から一歩も外にでない田中実子ちゃん。両親の愛を一身に集めた初子ちゃん。この智子ちゃん、この字にからだを曲けたままだ一じゅう、「うーうー、うーうー」とおなかの遠吠えに似たうめき声をあげつづける。固形物のものを通らず、栄養剤で生きながらえている。